



1984年に放映されたテレビドラマ「昨日、悲別で」、舞台「今日、悲別で」に続く「悲別」シリーズ最新作。架空の炭鉱町・悲別が舞台となった人間の本来持つエネルギーをテーマとした物語。

富良野GROUP公演2013冬

かなしべつ

## 「明日、悲別で」

2月26日(火)

19時開演 (18時30分開場)

と き 2月26日(火)

と ころ さくらびあ大ホール

入 場 料 全席指定 4,500円

(さくらびあ倶楽部会員500円引き)

作・演出 倉本 聡 出 演 富良野GROUP

チケット好評発売中

問 合 せ さくらびあ ☎0111

### 【あらすじ】

20年前に閉山した炭坑の町、悲別。散り散りになった若者たちは、20年後の大晦日、閉山の日の約束を守って今や破綻寸前のこのふるさとに集う。

約束とは、大昔この炭坑の地下300mに先人たちが埋めたという「希望」を封印したタイムカプセルを、探しに潜ること。だが20年の歳月は、若者たちを変えてしまった。



作・演出  
くらもと・そう  
倉本 聡さん

78歳。東京大学文学部卒業後、昭和34年ニッポン放送入社。昭和38年に退社後、脚本家として独立。昭和52年、富良野に移住。昭和59年から役者やシナリオライターを養成する私塾「富良野塾」を主宰。代表作に「北の国から」、「前略おふくろ様」、「風のガーデン」など多数。

富良野の畑の広さは、廿日市のそれとは段違いだそうで、「今日耕す畑の先が広すぎて見えないんです。倉本先生は、『役者の仕事も一緒に、ゴールが見えないもの。しかし、這いつくばってやっていけば、いずれたどり着く』と言われました。そういった精神的な持久力もここで鍛えられました。」

過去に広島市内での公演があったが、廿日市内での公演は初めてという。「地元廿日市の人には言葉に表せないくらい感謝しています。いろいろとお世話になった人や、応援してくださった人、やっと思返しができると思っています。そして、ケンカもし、お互いに泣き顔も見せた、まさに家族のような団員が、長い時間を掛けて作り上げた最高の舞台をぜひ見てほしいと思っています。」



富良野GROUP  
くりす・あやの  
栗栖 綾濃さん  
(32歳・廿日市市友田出身)

佐伯中学校、佐伯高等学校を卒業後、2年間の社会人生活を経て、脚本家の倉本聡氏が私財を投じて開設した脚本家・俳優の養成施設「富良野塾」に18期生として入塾。卒塾後は、塾生のOBなどで構成する「富良野GROUP」で、俳優活動を行っている。

「富良野GROUP」の公演が廿日市市で初めて行われる。その舞台に立つのが、廿日市市友田出身の栗栖綾濃さんだ。栗栖さんは、地元の佐伯高等学校を卒業後、2年間の社会人生活を経て、脚本家の倉本聡氏が私財を投じて開設した脚本家・俳優の養成施設「富良野塾」に18期生として入塾。そこで2年間、俳優としての基礎を学んだ。その後、塾生のOBなどで構成する「富良野GROUP」に所属し、富良野を中心に俳優活動を行っている。

「小さいときから舞台に立つことに憧れて、田んぼに囲まれた自宅でも音楽の練習に励んでいました」と栗栖さん。中学・高校時代にはクラシックバレエに夢中になり、夢を叶えるため、高校卒業後も仕事をしながらバレエの練習を続けた。そんな折、「富良野塾」のことを知り、入塾を決意。「授業料が無料で、2年間お芝居を勉強できるというのが大きな魅力でした。」

# 富良野で俳優活動が続ける 栗栖綾濃さん。 さくらびあで凱旋公演――

このまちで舞台に立つことが夢でした。育ててくれた地元、やっと思返しができると感じています。



倉本聡さんが長年ドラマの世界で培った映像表現を大胆に舞台に取り入れているのも富良野グループの魅力の一つ。倉本聡さん(写真右)から演技指導を受ける栗栖綾濃さん(写真左)。